

岡山県合唱連盟機関紙
トウツティ 号 外

発行責任者：岡山県合唱連盟

事務局長 内田 毅

事務局：岡山市福泊168-7

TEL/FAX (086) 274-2726

Tutti

“ 皆で祝おう ”

岡山県合唱連盟 創立五十周年

岡山県合唱連盟

理事長 近藤 安 介

皆さん、創立五十周年おめでとう
ございます。

戦後の荒廃の残る中、他県に先駆
け昭和二十二年にわが岡山県合唱連
盟は誕生しました。

そして半世紀、合唱音楽の普及と
向上、さらには音楽文化の発展に寄
与する事を目的に、合唱を心から愛
する諸先輩の多人なご努力により、
本年めでたく記念すべき年を迎えた
のです。

現在、県連への加盟数は七十五団
体約二千五百人ですからこの五十年
間に大きく発展してきたと申せまし
ょう。

過去の輝かしい歴史を踏まえ、来
るべき二十一世紀に向けて、次代の
社会のために合唱人のために、今私
たちは何を指標とすべきか、そのた
めに何をなすべきかが問われています。

そんな中で迎える大きな節目を記
念して、理事会では二年前から行事
を検討してまいりました。

以下に記念事業の概要を簡潔に列
記しますが、どうぞ県連挙げて五十
周年をお祝いしようではありません
か。

◎記念誌の発行

創立四十年には記念誌を発行してい
ました。したがって、四十一年から五
十年までの十年間をより詳細に記録
したデータを加え「創立五十周年記
念誌」として発行します。

実行委員長 片山康雄県連副会長

◎式典・表彰・パーティー

平成九年六月八日(日)夕
ホテルグランヴィア岡山
記念演奏会終了後、創立五十周年を
賑やかに祝いますので、ござつ
て参加してください。

永年におたり合唱を愛し、本連盟を
支えてくださった方々には、感謝の
意を込めて表彰状をお送りいたしま
す。

実行委員長 内田毅県連事務局長

◎記念演奏会

平成九年六月八日(日)
岡山シンフォニーホール
創立五十周年を祝って、連盟加盟全
団体による「岡山県合唱連盟五十周
年記念特別演奏会」を開催します。

既に、各部門とも練習が盛り上がっ
ていますが、ジュニア合同、中学合
同、高校合同、男声合唱、女声合唱、

混声合唱の六ステージが予定され、特
に、北村悠一・関屋 晋両指揮者を
お迎えし、連盟初の、大ベージュメン
トになります。

実行委員長 田中浩原連副理事長

◎平成九年度に行われるすべての

イベントは「創立五十周年記念」と
して開催されます。

開催される事業名

一、第五十回岡山県合唱フェスティ
バル

一、第二十一回おかあさんコーラス

中国支部岡山大会

一、第五十回岡山県合唱コンクール

一、第五回岡山県ヴォーカルアンサ
ンブルコンテスト

一、岡山県合唱連盟機関紙

「トウツティ」



岡山県合唱連盟創立五十周年を
迎えるに当たって

岡山県合唱連盟副理事長

片山 康雄

私が子供の頃、コーラスに魅せられて以来約四十五年ほど経ちました。我が岡山県合唱連盟はもともと古く今年で五十周年を迎えます。

一口に五十年というけれど、五十年というのは本当に長い年月だと思えます。

戦後の小さな生活の中で人々の心に安らぎと喜び、勇気と希望を与えてくれたのは音楽、とりわけ歌声でありました。私は戦争の経験はありませんが……、子供の頃勇ましい兵隊さんを見ては「僕もなりたいなあ！」なんて思ったことがあるような気がします。

しかし、人間として気が付いてみると(終戦は小学校二年でした。)戦争は終わり、何か夢と希望を失った……あわたたしく暗い日本だったと思います。そういう時代(まだテレビのない時代)にラジオから流れてくるさわやかな歌声を聞きながら歌を歌ったりしたことを思い出します。小学生、中学生時代を過ぎ、高校生になってコーラスを経験し、コーラスのとりこになってしまいました。

そして年月は夢のように過ぎ去る

て平成九年の今日、岡山県合唱連盟は五十周年を迎え、加盟団体数七十四団体、総人数約二千五百人という大規模な合唱連盟に成長致しました。

そこで我が岡山県合唱連盟では恒例の合唱フェスティバルのほかに五十周年記念特別演奏会と銘打ってフェスティバルの翌日(六月八日)に各部門の合唱団を企画し、着々と練習に入っています。ジュニア合唱、中学校合唱、高等学校合唱、男声合唱、女声合唱、混声合唱の素晴らしい演奏会が開けることでしょう。

特にこの日のためにお招きしている、我が日本の合唱界を代表する名指揮者、関原 晋・北村協一・近藤安介の諸先生による演奏会も大いに期待されることでもあります。

そして特別演奏会後には祝賀パーティーも行ないますし、五十周年記念誌も出版致します。

この五十周年という素晴らしい節目を迎えるにあたり、連盟会員の皆さんと共に祝いし喜び合いたいと思います。そして今後ますますコーラス活動が発展し、コーラスに満ち満ちた平和な日本、平和な世界が続くことを祈念したいと思います。

岡山県合唱連盟創立五十周年
新会特別演奏会によせて

岡山県合唱連盟

副理事長 田中 浩

一月二十三日(日)、待ちに待った岡山県合唱連盟創立五十周年記念特別演奏会へ向けての練習が始まりました。待ちに待ったと大興奮に書きました。待たずに待たずに大興奮に書きました。待たずに待たずに大興奮に書きました。待たずに待たずに大興奮に書きました。

それだけに県連の行事としてはかなり長い取り組みが行なわれ、またやる事の意味の大切さ、大きさを皆さん方も強く感じられているのではないのでしょうか。

このTuttiは五十周年特集という事なので演奏会に向けての今日までの取り組み、その発表の二点に絞って書かせていただきます。

平成七年の中頃から五十周年には何をやるのですか、という話からほぼ出てはいましたが、具体的な話は全く進んでいませんでした。五十周年ですから記念誌、式典ぐらいはやるだろう。イベントとしては例年の合唱フェスティバルに少し色を加えたいかな、それを残しておきたいな、という程度のものだったと

思います。

平成八年四月の総会で理事が改選され、新しい理事大勢が発足しました。それを受けて理事会の中に初めて、岡山県合唱連盟創立五十周年記念事業企画委員会が設置され、全理事がイベント、記念誌、式典の二部のいずれかに属して事業を推進して行くことになりました。

私はイベント部会のチーフとして、いろいろな方にどのようなイベントを望んでいるか聞きました。すると特別演奏会、講演会、講習会、フォーラム、研究会等大変前向きな反響が返ってきました。

それを受けてイベント部会としては特別演奏会を理事会へ提案したわけです。また、近藤理事長と山陽放送との話し合いで、今年に限り六月七・八日の二日間のシンフォニーホールの使用を事前に押さえて下さる事が決まりました。

そこから一気に、一日は、従来の通りの合唱フェスティバル、二日に特別演奏会、式典、祝賀会という話に流れていったわけです。話が決まってきたら早速、組織作り、日程調整、練習会場のおさえとスムーズに事が運び、十月には合唱団員募集にこぎつきました。

この間、県連はいろいろな行事をこなしながら企画を進めていくので、短期間でよくまとまってきた

いう感じでした。ただ私としては、はたしてどのくらいの人が集まるか心配していたのですが、予想以上の人数が応募して下さりはっきりしているところですね。

次に、この特別演奏会の意義ですが、大きく分けて二つあると思います。一つは、五十周年の記念特別演奏会ということですね。誠に当たり前のように聞こえますが、そうでしょうか。私はたまたまこの時期に副理事長をさせていただいているため、このイベントのチーフという大役をやらせていただいた事を大変幸せに感じています。人生にはいろいろな巡り合わせがありますが、年と人とチャンスがうまくかみ合うという事はない事です。その点では本当にラッキーでした。五十周年は今年しかないのですから。

もう一つは、興連がこのような形でジュニアから一般まで、全部がまとまって合同演奏会を開く事は、今向が最初ではないかと思えます。部門別でもこれだけ多くの合唱団の人々が合同で歌う事はほとんどなかった事ではないでしょうか。

それだけに今回の練習、演奏会がうまく行けば、これからのいろいろな合同練習や演奏会が開かれるものと期待されます。それが原連のレベル向上に必ずつながってくると思われれます。すでにそのような兆候も現れてきています。

特別演奏会に寄せて

男声合唱部長 森 藤 英 樹

岡山県合唱連盟五十周年の歴史の中で、全加盟団体を対象とした演奏会はおそらく初めての事ではないでしょうか。これを機会に、今後大曲の合同演奏が著名な指揮者を招いて連盟主催で開催できればと思います。

さて男声合唱の部では、男声合唱組曲「富士山」(草野心平作詩/多田武彦作曲)を北村協一先生の指揮で演奏いたします。

多田武彦の作品は、日本の男声合唱界にとつて不可欠の、あるいは必須のレパートリーといえますが、この組曲は処女作「柳川風俗詩」に続く二番目の組曲として、草野心平の雄大な詩を題材に一九五六年に作曲されました。

私の所属する倉敷男声合唱団では去る一月の第六回定期演奏会で採り上げたところですが、今回の特別演奏会ではコーロロータス、倉敷男声合唱団など九団体の約百名で演奏いたします。

今まで四回の練習を行なってきましたが、次第に声も一つに溶け合ってきてまとまりのあるものになってきています。

力強さと繊細さとを同時に表現できるのが男声合唱の一番の魅力です。学生時代から男声合唱にこの道筋の深

い北村先生の指揮の下、きっと皆様方に満足していただける演奏が出来ると確信しています。ぜひお聴き下さい。



女声合唱部長 長 尾 節 子

あとから追加して、出しても山しても足りない椅子。外は木枯らしが吹いていても暖房の必要のないほど熱気のある練習会場。女声合唱は相変わらず人気絶頂、バワイ全盛です。ソプラノ九十七名、メゾソプラノ九十一名、アルト七十二名という沢山の皆様の申し込みをいただき、嬉しい悲鳴を上げています。

日下は興連のホーン、高野先生が発声に始まり二時間におよぶレッスンを、汗をぬぐいながら声をからし「百余名の熱女を相手に全力で立ち向かってくださったっています。

小林秀雄作曲「落葉松」に取り組んでいる女声合唱の部の何よりの利点は指揮者が地元ということですね。いよいよ次回の練習から我が近藤理事長が登場です。

先生の御指導で、先生の指揮でコーラスをしたかと思っていた私たちが切なる願いがようやく叶った……というカンジです。

その指先のマジックでどのような料理されるのか、どのような音楽に仕上がらせて下さるのか、とてもワクワクしています。

季節は春らんまん、きっと今後は冷房も効かないくらい熱い練習が待っている事でしょう。六月八日のステージが今から待ち遠しく思えます。



混声合唱部長 井内 修

混声合唱の曲目は、伊藤海彦作詩／萩久保和明作曲の混声合唱曲「季節へのまなざし」です。

日本の微妙に移り変わる四季を描きながら、私たちの内部の「見えるもの」、「見えないもの」、「見えないでいるもの」のおそろしさを、「見えてくる」ことの不幸、を問い掛けている意味深い曲です。

美しい旋律と激しいリズム、苦手の（四十歳以上の方にはワーン）変拍子、同一時間、八回の練習ではなかなか難しい曲ですが、練習指揮の上月先生の熱心で我儘強い指導の下頑張つて歌っています。

本番の指揮は普及会常任指揮者の関屋 晋先生、ピアノ伴奏は大池真理子さんです。私が関屋先生の指揮で歌ったのは十数年前、倉敷で演奏された小澤征爾指揮の「短調ミサ（バツハ）」。その練習指揮で来られた時です。四月二十九日の関屋先生の初練習をとっても楽しみにしています。

今回のように異なった合唱団のメンバーが集まり、合唱界で活躍されている先生方の指揮の下で演奏会が催される事は、岡山ではあまりない事です。今回参加されなかった連盟員の方も是非聴きにいらっしやうてください。きっと楽しい演奏会になると思います。

二十年前くらい前にKKM演奏会、DKKM演奏会と名づけた今回のような演奏会が行われていたことがありました。その時は一般公募で団員を募り、二ヶ月間毎週日曜日の練習で本番を迎えるというような、結構ハードな演奏会だったような気がします。他団体の人たちとも交流が出来るし、自分の団だけでは出来ない貴重で楽しい体験もできるでしょう。

今回の記念演奏会を機に今後このような企画が出来れば、県合唱連盟も一層活気付くのではないかと思います。

混声合唱のステージに立つのは、最終的には女声百名、男声四十名、計百四十名前後になりそうです。他の部門に負けないよう頑張りたいものです。

